

ふくしまイレブンとは、福島県の多彩な農林水産物を代表する生産量が全国上位の11品目です。毎月おいしいアスリートを紹介します。

ふくしまイレブン



バックナンバーが読める!
HPはこちら!!!

ふくしまイレブンエッセイ

検索

click

新説 ハル・キタル

ふくしまイレブン 背番号9番
アスパラガス

高速道路の街灯が、一定のリズムでオイラの顔を照らす。バスは静かに、真夜中の小イウエイを進む。
「なんだって高速バスなんだよ。」
オイラは一人つぶやきながら、カーテンを少しだけ開けて、街灯の向こうにある故郷を見つめていた。

サッカーっていうのは、ほんの一瞬ですべてが決まる。逆もまた真なり。その一瞬をつくりだすのは、それまでの細やかなプレーの積み上げだ。
オイラがこの背番号を背負ったのは、一年の時。他はみんな二年か三年だったレギュラーメンバーのなかに、オイラが入るのは異例のことだった。上級生にもストライカーをやってきた人は何人もいたが、力を認められたオイラがレギュラーになったことについては誰も文句を言わなかった。
しかし、三月の練習試合のことだ。百発百中と恐れられていたオイラのシュートが、見事ゴールの上をかすめてはずれた。一瞬の出来事だった。

一点も得点をとれないまま、オイラたちは負けた。
「なんでバスでまわさないんだよ。」
試合後、更衣室で着替えていたオイラに背後から川俣シャモが言った。

「僕もあそこからじゃ入るわけないと思っただよ。」
きゆうりが控えめに、しかし不満な表情を隠しきれずつぶやく。
オイラは黙っていた。あの瞬間、もうロスタイムに

入っていた。オイラは無理な体勢でもシュートを決めに行かざるを得なかった。もつと言え、そんなぎりぎりの時間まで相手からボールを奪えなかったから、いいシュートをオイラが打てなかったんだ。オイラのせいじゃない。そういう思いがどどん膨らんでいった。
「もつとチームプレーを大切にしようぜ。」
コメがオイラの肩をぽんとたたいた。
オイラはコメの手を振り払って、「帰る」と一言つぶやいて更衣室を出た。世界を目指すオイラとチームメイトとの間に、温度差がありすぎると思った。そして、その足で故郷をあとにした。

春休みの間、オイラは東京にある叔父さんの家で過ごした。練習試合の後、一度も練習には出なかった。暇を持て余して、ラジオを聴いたり、インターネットをしたり、ゲームセンターに行ったりして過ごした。
サッカーをやりたいはなかったけど、やりたくなかった。サッカーが好きはずなのに、嫌いだ。なぜか、「ふくしまイレブン」のメンバー以外でサッカーをすることなんて、想像もつかなかった。
その後、そんなオイラの元に、一通の封筒が届く。そして、差出人のないその封筒に入っていた、一枚の福島行の高速バスチケットで、オイラはバスに揺られることになる。

人生っていうのは、自分の決断にすべて委ねられている。逆もまた真なり。その決断を導くのは、人と人との関わりだ。

「それにしても、高速バスはないだろ。」
狭いシートに横たわり、いびきをかきながら熟睡する中年を横目に、一人思う。仲間がオイラを福島に戻してくれた以上、オイラがチームを世界に連れて行ってやる、と。



アスパラガス

会津地域を中心に、福島県各地で生産しているアスパラガスは、3月から9月にかけて出荷されます。食用として日本で栽培され始めたのは明治時代で、比較的新しい品目ですが、県内にはベテラン生産者が多く、冬の寒さで身のしまった甘いアスパラガスを生産しています。福島県オリジナル品種「ハルキタル」は、収量・品質がよく、「春の訪れとともに大地から力強く萌芽した若莖を食し、春の到来の喜びを実感してほしい。」という意味を込めてつくられています。

ふくしまイレブン販売促進協議会